
少尉と軍曹2

hiromaru712

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少尉と軍曹2

【Nコード】

N8188Y

【作者名】

hiromaru712

【あらすじ】

「ポエム24」という遊びがある。

Twitter詩人・歌人が集い#poem24というハッシュタグで午前零時丁度に決められたお題に沿った詩や歌を一斉にPostするという、新世代の雅な遊びだ。

開催日程は不定期。開催告知も不定期。お題提案者は毎回参加者の中から選ばれるが、その全てを主催者である若きTwitter詩人が任意に（有り体に言えば気紛れに）決定している。参加者はその詩人のアイコン（本アカウントは頼杖の男性イラスト、ポエム2

4用サブアカウントはメロンパンを頭に載せたキツネ少年キャラの一挙手一投足に自然ハラハラドキドキすることになる。この物語はポエム24参加者である著者が、そのハラハラドキドキの主催者観察風景を擬人化し、Twitterタイムライン上に主催者のツイートがある度にタイムリーにリアクションとしてPostしていたものを、ほぼそのまま纏めたものだ。ツイートを順に貼り付けただけなのでお見苦しい点も多々あるかとは思いますが、そういった事情なので御容赦願いたい。なおコンピュータや情報関連のそれっぽい用語や単位、数値は架空のものであることに留意されたい。

Gloomy fox

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

二曹「フタヨン回ります。TL問題なし。メロンパン値正常。」少尉「ご苦労、二曹。すまん。初日から君一人で。」「いえ。問題ありません。軍曹は…体調不良ですか?」「いや。お母上が倒れてな。命には別状ないようだが。」「…そうですか。」「あと一時間頼むぞ。」「了解。」

二曹「マルヒト経過。全て異常なし。」少尉「状況終了。」「ログは甲種で本部と笠岡へ送信。クローズチェックも…少尉、退勤を切られましたか?」「私は責任者だ。最後に退勤、退室する。先に切れ。二曹。今日は足はあるのか?」「少し寝坊しまして車で…あ!…来ました。」「…何故悔しそうなんだ?」

二曹「お先に失礼します!」少尉「…なんだ?慌てて。」

少尉「どうした二曹。故障か?」「バッテリーが上がっちゃったみたいで…。」「どれ。見せて見る。」「えっ?はい…。」「接点が緩んでる。これで…【ドルルン!】…そら。直ったぞ。」「…有難うございます。」「…何故悔しそうなんだ?」

【主催者ツイート】

お題を決めて24時にポエムPOSTする遊び 『ポエム24』

30回目の今夜のお題はめうたむさん (@white_tale

61921) 提供

『癖くせ』

参加表明不要の自由参加です。 #poem24 のタグをつけて下さい。お題そのものは入ってなくてもOKです。

少尉「前線の様子は？」軍曹「苦戦しています。ただいつも通り土気は高いようです。」二曹「笠岡より入電。今回分のアナウンス原稿が添付されています。『健闘ヲ心カラ』」少尉「返電。『歌八裏切ラズ』。」少尉「了解。」軍曹「アナウンス原稿のTL魚雷への装填…分かる？」二曹「はい。読込み中です。」

二曹「笠岡より入電。24参加者のコメント増加。」軍曹「オート暗転ディスプレイジャーにフィードバックエラー。作動しません。」少尉「手動に切り替える。」少尉「了解。」二曹「アナウンス発射管問題なし。いつでも行けます。」少尉「よし。投稿POSTのタグ確認。…両名とも焦るな。訓練通りやれ。」

二曹「セカンダリモニターに断続ノイズ。『気当たり現象』と推定。『湖水流円』を実行。…状態回復。フォロースルー残時間を計算中。…想定。11分。軍曹、その間、笠岡通研関連業務もお願いします。」少尉「了解？」少尉「いいぞ、二曹。その調子だ。君一人の部署じゃない。楽に行こう。」二曹「了解。」

軍曹「残り30分。」少尉「ターゲットスコープ・オープン。明度調整。」軍曹「了解。ターゲットスコープ・オープン。電影クロスゲージ明度70。」少尉「投稿POST装填。目標精査の後、誤差修正。」二曹「了解。誤差修正。俯角2度。仰角3.1度。」少尉「呑む息にアドレナリンの味がする、か。」

少尉「暗転用意。今日は手動だ。間違うなよ軍曹。」軍曹「大丈夫です。そういうの、『軍曹に暗転を説く』って言うんですよ。」「
…まんまじゃないか。」

軍曹「暗転、よし！」

少尉「アナウンス用意。」二曹「了解。発射管注水。…発射管開きます！」

大変長らくお待たせ致しました。

間もなくpoem24の開演です。

今夜のテーマは「癖」。

今宵も、今日と明日のはざまに煌めく詩と歌の競演を、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

#poem24

二曹「アナウンス投下よし！」少尉「投稿POSTよい！」

「…なんてね。」の癖だけ残し 去る君に そつとつぶやく「また
な…なんてね。」 #tanka #jttanka #短歌 #p
oem24

軍曹「投稿POST投下よし。TLクラスタ及び通常クラスタへの
反映確認。」二曹「…ふう。」少尉「状況終了。デフコン解除。ご
苦労だった。二人とも。二曹も…よくやった。ただか二度目とは
思えん。」二曹「有難うございます！」

軍曹「クローズチェックも…あと自分らの退勤だけです。」少尉「
先が上がっていい。私は施設課にオート暗転のメンテ依頼を上げて
から上がる。」軍曹「配電盤の雨漏りですよ。先月もメンテ依頼上

げられてましたよね？ちょっとガムテで応急して来ます。二曹もおいで。場所教えとくから。」二曹「はい。」

少尉「すまなかつた軍曹。濡れなかつたか？」軍曹「いえ。二曹が傘を保持してくれたので。」少尉「二曹は…駅まで送ろうか？」二曹「…宜しいですか？」軍曹「あ、自分もお願いします。今日実家から直だったんで。新幹線口からタクシーで来たんです。」「チツ。」少尉「…今誰か舌打ちしなかつたか？」

二曹「笠岡より入電。対象は夜勤の模様。」軍曹「TL異常なし。メロンパン値0.92mrp。」少尉「うちの主力部隊…712中隊も大概激務だが…狐の方も大変そうだな。」軍曹「…人は歌や詩を食べて、腹が膨らむようには出来てないですね。」二曹「…作者の想いの丈に、胸は膨らみませうけどね。」

軍曹「お疲れつした！。」二曹「お疲れ様でした。軍曹、今日は原付で？」軍曹「うん。一応予備のメットも搭載して来た。」二曹「でも雨降りそうだし…少尉あの…。」少尉「すまん。今日は約束があつてな。迎えが来るんだ。」軍曹「女ですか？」少尉「総監部の同期だ。男だよ。飲む約束でな。」

軍曹「そか。少尉明日お休みですもんね。」少尉「明日の事は熊野中尉に申し送つてある。粗相の無いようにな。」軍曹「了解。明日はプーさんか…。」少尉「軍曹。それが粗相だ。相手は上官だぞ。自重しろ。」軍曹「了解。」少尉「軍曹。二曹を駅まで送れ。安全運転でな。」二曹「えっ。」軍曹「了解？」

二曹「二人切りで送ってもらおう。アカウントを教えてください。Twitterを通じて仲良くなる作戦、第一段階で頓挫中…戦術を根本から見直すか…不撓不屈の精神でやり抜くか…。」

少尉「…はつくしゅん？」

品切れで 次回入荷も未定です。 あの日の僕の夢と希望は # t
a n k a # j t a n k a # 短歌

ご予約も承っておりません。 「夢」はネットじゃ高値がついて
t a n k a # j t a n k a # 短歌

生産が追いついてない状況で 「希望」はいつも需要過多です。
t a n k a # j t a n k a # 短歌

二曹「712中隊より入電。短歌三首。」軍曹「何かあったんでし
ようか。やや愚痴っぽいですね。」熊野中尉「うん。ポエム24と
は関係ないですよ。ログだけとつといて。」二曹「了解。」熊野
「メロン値は？変わりない？」軍曹「…はい。0.5m r p前後で
微動。」熊野「はあ…。」二曹「…。」

二曹「笠岡より入電。転送ツイートをメインに出します。」軍曹「
メロンパン値僅かに上がる。現在12.6m r p。グラフ細動。」
熊野「うーん。まあ誤差範囲でしょ。…仲本二曹は彼氏とかいるの
？」二曹「…は？いえ。生憎。」熊野「へえ。可愛いのに。最近の
若者は見る目がないねえ。」二曹「…。」

軍曹「フタヨン回る。T L異常なし。メロンパン値3から6の範囲
で波打つ。」二曹「笠岡沈黙。転送、ありません。」熊野「お疲れ
様。じゃ時間になったらクローズして上がって。」二曹「え？」軍
曹「…お疲れ様でした。お気を付けて。」熊野「お先に。」……
二曹「…いつもああなんですか？あの方。」

二曹「笠岡より入電です。軍曹。」軍曹「24との関連は薄い、か。二曹。笠岡の遠藤准教授に連絡。この間の飲み会がどれくらい楽しかったかを300点満点で評価して貰え。フ…危機に際して心が踊る…とはな。」…少尉に言いつけますよ。「やめて下さい。」

二曹「笠岡より再度入電。『結婚したい。』。軍曹「結婚か…鳥カゴに似ていると言った作家がいたな。外にいる鳥は入りたがり、中の鳥は抜け出そうと徒らにもがく…。」それ、作家じゃなくて哲学者ですよ。モンテーニュでしょ？エセー少尉。「どう？似てる？」…微妙に似ててイラツとします。」

二曹「クローズエック。完了です。退勤、切られました？」軍曹「先に切りな。今は自分が室長代行だ。最後に退勤するよ。」「はい。」

二曹「お疲れ様でした。」軍曹「ご苦労さん。プーさんとの一日はどうだった？」「なんかモヤッとしました。なんであの方が少尉より上官なんですか？」「防大出のキャリアだからね。少尉は一般大からの編入組。そういうもんさ。あ。」「どうしました？」「少尉からメール。『二曹を送れ。』」「……。」

二曹「おはようございます。シユン。」少尉「おはよう。どうした？風邪か？」「昨日の帰り…軍曹に送ってもらったんですが。」「ああ。私がメールした。」「途中で雨が降って来まして…。」「…そうか。女性一人の帰り道、万一を考えての指示だったのだが…逆にあだになったか。すまない。」「いえ。」

軍曹「おはようございます。へっくし。」少尉「おはよう軍曹。…昨日は大変だったみたいだな。大丈夫か？」「ばい。」「…ちよっ

と雨宿りに止まればよかったのでは？」「スゴルびだいにぶわあつど、ふつで…やむのばすぐやんだんですが。」「にしても…」「やばでばみです。」「いや、似てないぞ。」「

二曹「どうでした？飲み会は。」「少尉「ああ。愉しからずや、さ。…不穏な噂も聞く羽目にはなったが。」「不穏な噂？」「…ポエム24のニセ企画があるらしい。」「へえ。ニセ者が出るのは人気の証なんでしょうけど。」「…ポエム25というタイトルだそうだ。」「…ノーベル安易賞をあげたいですね。」「

二曹「笠岡より入電。メインに出します。」「少尉「本日二つ目のPOST。仕事のようだから日中に動きは無さそうではあるが…。」「軍曹「狐には何度ほ煮え湯をどばざれでぎばじだからで。」「少尉「軍曹。…鼻をかめ。」「

二曹「少尉。一つ質問しても宜しいですか？」「少尉「なんだ？」「中将のあとの基地司令は…？」「ああ、中々決まらない。特殊機密取扱いの資格を持つ将官自体、殆どいないからな。時間がかかるんだろう。大槻副司令もばやいていたよ。」「…そうですか。シユン。」「…私にうつるのも時間の問題だな。」「

軍曹「佐官の司令が来るんですかね？」「少尉「大槻副司令が大佐だぞ？それでは副司令がやり辛い。終戦が見えてるのに司令をさせる為だけに将官を増やすような特進もあるまい。だから決まらないのさ。」「なるほど。」「或いは、情報隊じゃない隊の資格保持者を…」「…なんです？」「…いや、まさかな。」「

二曹「笠岡より…くしゅ！すいません。入電。シユン。メインに出します。」「軍曹「…なるほど。もっともな指摘、ですね。…712部隊はどうしてるんでしょう？」「少尉「ルールを決めてるわけでは

ないようだが…フォロワーの半分程度をフォローしているようだ。
自然にそうなったらしい。」「…中庸、か。」「

少尉「そう言えば副司令が仰っていたんだが、うちに新しい端末を
入れて下さるそうだ。」「二曹「新しいタワー2ですね。」「いや。
これを期にタワー1も新型になる。増設とパッチでなんとかしてる
が…もとの機械が古過ぎるんだ。」「二曹「確かに。9801なんて
聞かない機種ですもんね。」「二人「……。」「

軍曹「で、機械はこの、何になるんです？」「少尉「オムニ社のエ
スピオネージ2300、と聞いたが。」「軍曹「え？…高級外車が1
0台買えるマシンですよ？2台ともエスピの最新機に？どこからそ
んな予算が？」「神辺の通信施設の余力だろう。終戦までに使い切
る気だ。高性能PCなら転用が効くしな。」「

軍曹「うーん…。」「少尉「どうした？嬉しくないのか？モニタも高
輝度タキオンディスプレイ。キーボードもチタンセラミック複合
キーで循環型化学ベンチレーター標準装備だぞ？タッチ熱問題も解
決だ。」「最新型の初期ロットは不安で。現行よく使うツールも今
の環境に最適化してるんで…手放しでは。」「

軍曹「選べるなら東レのパンデモニウムM09がよかったなあ。」「
少尉「東レ？あそこは光学機器メーカーじゃなかったか？」「とこ
ろが一種だけPC造ってるんですよ。パンデモニウムシリーズ。お
ととしのモデルはハッキングツールと相性がいいって評判で。キー
なんて黒曜石。スゲー渋いんですよね…。」「

二曹「笠岡より入電。4時POST。」「少尉「ゼルダ、か。」「二曹
「少尉はゲームとかされるんですか？」「社会人になってからはあ
まりな。時々買いはするが…中々クリアまでやらない。」「「どんな

ゲームを？」「旧作のリメイクが多いな。昔、何度もやったのにまた買ってしまう。」軍曹「…分かります。」

少尉「二曹、今日は君は早上がりだったな。上がっていいぞ。温かくして早く寝ろ。」二曹「…了解。軍曹。セカンドリは閉じます。申し送りは特にありません。」「了解。お大事に。」軍曹も…少尉。お先に失礼します。」「ああ、ご苦労。気を付けてな。」

二曹「はあ…。」

軍曹「内線1番。511？取ります。はい備管別。…分かりました。代わります。少尉。大槻大佐です。」少尉「代わりました。…は。ええ。あ、そうですね。副司令も肩の荷が降りますね。…で、どなたに？…え！しかし彼女は…。なるほど、分かりました。…はい。ありがとうございます。失礼します。」

軍曹「新しい司令、決まったんですか？」少尉「…。」「少尉？」「ああ、すまん。メロンパン値は幾つだ？」「…どうしたんです？メロンパン値の話なんてしてません。今、自分は、新しい司令が決まりましたか？…。」「ああ…すまない。そのようだ。海外協力隊の石野情報大佐が着任される。」

軍曹「いつからです？」少尉「週明けだ。彼女は今、南スーダンのPKOを情報支援する任務に着いているが、今週一杯で任期が明けるんだ。」「へえ…南スーダン…って、え？今『彼女』って…。」「その通り。石野涼子情報大佐は女性。新しい司令は女大佐だ。」「…お知り合い、なんですか？」「…。」

軍曹「…昔、お付き合い、なさってた…とか？」少尉「…さあな。状況中だ。慎みたまえ軍曹。」「…了解。」

二曹「来週の蟹座は…『凶』。もう…今週十分ツイてないのに…。
くしゅ！」

二曹「笠岡より入電。…忘年会についてですね。」軍曹「今年はどうします？遠藤うち、副司令…新しい司令にも声かけて盛大に行きますか。」二曹「あ、次の司令決まったんです？」軍曹「石野情報大佐って女性らしいよ。」二曹「へえ。この世界で女性って少ないから…話せる方だと嬉しいな。」少尉「…。」

晴天の空のせいにはできなくて いないあなたの大きさを嘯む #
t a n k a # j t a n k a # 短歌

澄み渡る風が肌身に言い聞かす 訪れる冬 去ってつた君 # t a
n k a # j t a n k a # 短歌

二曹「あ、続いて712中隊より。短歌二首。」軍曹「…寂しげ？」
少尉「失って初めて気づく…。古今、人の賢愚は様々に繰り返し問
われているが、その一点に於いてははつきり愚かだと言いつても
いいかもしれない。」軍曹「少尉もそんな経験が？」「…私が人で
はないとでも？無論私も例外ではない。」

軍曹「TL異常なし。メロンパン値1以下で微動。」二曹「笠岡も
沈黙を守っています。転送、ありません。」少尉「…うん。」軍曹
「少尉、先程から何を？」「例のポエム25が気になってな。見て
くれ、サブのBに出す。」軍曹「…もしかして…ポエム24『これ
だけ？』「検索にかからん。只の噂…か？」

二曹「笠岡より入電。4時POST。」少尉「面倒なタイプのクレ

「マーだな。」軍曹「どうせならスカイもスカイにして欲しいですね。」二曹「東京もトオウキヨに、ですね。」少尉「…新幹線のアナウンスか。」

二曹「笠岡より転送。対象は割とゲームもするんですね。」軍曹「だな。にしても少尉遅いな。大槻大佐と何話してるんだろ。」新司令についてミーティングって言ってましたけど…なんで少尉が呼ばれるんでしょうね。」「…それなんだけどさ。新しい司令と少尉…昔何かあつたんじゃないかな?」「え?」

二曹「何か、と言うと?」軍曹「少なくとも知り合いではありそうなんだ。副司令に呼ばれたのは新司令の人となりとかを、副司令が知ってたかつたんじゃないかな?ただそつから先が…。」「つまり…元恋人だった、とか?」「…分からない。ズバリ訊いたがはぐらかされた。」「…少尉の元カノ…新司令が?」

二曹「……。」軍曹「二曹。」「…。」二曹「入電だよ、712中隊から。」「え?あ…すみません。712中隊より…短歌二首…あ、いえ、三首。」「…やつぱ好きなんだね、少尉のこと。」「…何を言うんですか?!状況中に!そんな…嫌いじゃ、ないでございませうが…あれ?」「分かった分かった。」

軍曹「内線511…副司令室。取るね。はい備管別。あ、少尉…はい。いえ、特には…そうですね。分かりました。何かあればすぐ…いいえ。はい、失礼します。」二曹「…まだ戻られないんですね。」「…なんか長引きそうだった。」「……。」「…状況中には訊くなよ?」「…分かってます。」

少尉「すまない。遅くなった。異常はないか?」軍曹「はい。Tし、

メロンパン値、ヒューマノイドのツイート内容、全てネガティブ。兆候、ありません。」二曹「笠岡沈黙。712中隊健在。コンスタントに短歌をPOSTしています。」少尉「副司令も…時間を考慮してくればな。気が気じゃなかった。」

軍曹「新司令…石野情報大佐とは以前、同じ部隊に？」少尉「ああ。もう七年になるか…任官された最初の年に。北九州下曾根基地の情報班『電算総務室』で世話になった。彼女は二年先輩で諜報のイロハを教わったんだ。」「告白は新司令が？」「軍曹：私がそんな力マにかかると思つか？」「ダメ元です。」

二曹「お疲れ様でした。」少尉「ご苦労。軍曹、二曹を駅まで送ってくれ。私は副司令をお送りする。」二曹「…副司令、電車通勤なんですか？」少尉「いや、御宅まで送る。奥方が車をお使いだそうです。」二曹「…はあ。」軍曹「安心しろ二曹。今日は軽四で来た。」二曹「…そういうことじゃありません。」

Foxy commander

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

軍曹「TL正常。関連POSTなし。」二曹「笠岡沈黙。712中隊：くしゅ！すいません。健在。」少尉「了解。二曹、今日はもう上げれ。」「いえ、くしゅ！大丈夫でふ。」「そうは見えん。顔色もよくない。寝不足か？」「…はい。昨晚…眠れなくて。」「雨に打たせたのが悪かった。上げれ。命令だ。」

少尉「12月が近づくと…流石の狐も大人しいな。」軍曹「公務員にはピンとこないですが、一般企業は大変らしいですね。」「友人が小売だが…普段歩きまで早くなる、と言ってたな。」「師走、とはよく言ったものですね。」

軍曹「フタヨン経過。オールグリーン。」少尉「ふう…一息入れよう。」「コーヒー、今日もありありで？」「いつもすまん。ブラックにしてくれ。」「…少尉、二曹なんですが。」「ああ、何かあったか？」「何か…悩みがあるようなんです。」「眠れない、と言ってたな。」「…今度聞いてやって下さい。」

少尉「それは構わんが…軍曹が聞いてやってたらどうだ？歳も君の方が近い。それに相談に乗ってる内に仲が深くなる…ってのも良くある話だ。二曹が気に入ってるんだらう？」軍曹「…だからこそ、です。これでも作戦があるんです。二曹の話を聞いてやって下さい。」「…そうか。分かった。話してみよう。」

軍曹「お疲れ様でしたー。」少尉「ご苦労。軍曹、二曹の悩み相談

だがな。「はい。」「上官として部下のメンタルヘルスのケアはするが…君の期待するような展開には…なんかも知れんぞ。」「はい。」「例えばなったとして…君はそれでいいのか?」「…ええ。」「…難儀な男だ。」「全くです。」「

軍曹「少尉は正直、二曹をどう思ってるんです?」「少尉「…健気で可愛い部下だ。」「告白とかされたら?」「…難しい質問だな。」「食事や映画に誘われたら?」「…。」「考えといて下さい。変につっけんどんになったりしないように。間違っても『軍曹も誘おう』なんてナシですよ。」「…難儀な男だ。」「

少尉「願うのは好きになった子の幸せ…か。優しいな、軍曹は。」「軍曹「オタクが一律、偏狭で独占欲が強い…なんて思わないで下さい。人一倍ナイーブで身を引くタチ。だからオタクやってる、なんて優しい人間も沢山いるんです。…目立つのは少数の偏執狂ですけどね。」「…問答無用の説得力だな。」「

少尉（考えといて下さい…と言われてもなあ…二曹。君は私とどうなりたいんだ…?）

二曹「ひ…くしゅ!」「

軍曹「戻りました。あー美味しかった。少尉、ご飯どうぞ。」「少尉「ああ。…今日は金曜カレーか。」「二曹「金曜カレー?」「軍曹「食堂に爺さん料理長みたいな人いるだろ?兵站長の田川少佐。カレーにすげえこだわってて、毎週金曜は特製カレーなんだ。仕込みに一週間かけた特製の。」「へえ…くしゅ!」「

軍曹「TL正常。問題なし。」「二曹「笠岡からの転送ありません。712隊は『誰か七七ください』に二首POST。」「二曹。」「

しゅん。はい。「少尉と話すチャンスがあつたらさ。「…はい。「いきなり思いの丈をぶつけるより、ご飯なんか誘うのがいいと思うんだ。「…。」

軍曹「余計な世話を承知で敢えて言ってるから、違つと思つたら無視してくれて構わないんだけど。「二曹「いえ。…私もそう思います。「お話があるんで、長くなるんで、ご飯でも食べながら…みたいなさ。相談がある部下のていで行けば、少尉は断らないよ。「はい。…でしょうね。「…頑張れ。」

二曹「笠岡より入電。「軍曹「言われた言葉の意味…か。「軍曹…何故応援して下さるんです?」「君も少尉も好きだからさ。「…。「それに少尉はあんなだからなあ。少尉と一緒に居たいが為に仕事辞めて人事システムクラックして乗り込んでくる位のガッツある子がいなきゃ…一生独身だ。あの人。」

少尉「何事もなくフタヨン、か。「軍曹「カレー、食べて来たんですか?」「ああ。カレーは好物だから色んな所で食べるが…兵站長のは一二を争う味だ。何時間も鍋の前において自ら仕込むらしいぞ。「二曹「金曜カレーって海自の習慣じゃないですか?」「少尉「流石だな、二曹。兵站長は元護衛艦乗りだ。」

二曹「お疲れ様でした。「軍曹「つしたー。「少尉「軍曹…挨拶はきちつとしろ。「二曹「じゃ、私…これで。くしゅ!」「少尉「駅まで送ろうか?」「二曹「母が迎えに来てるんです。風邪引いたって言うたら、ご飯作りに来てくれて…。「チツ。「少尉「…今誰か舌打ちしなかつたか?」

母「背の高い方が隊長さん?言うてた少尉さんやる?…かつこええねえ。ぴつとして賢そうで。今度お母ちゃんも紹介してよ、挨拶し

たいけん。「二曹」：絶対、イヤや。くしゅ！」

軍曹「ＴＬ異常なし。メロンパン値0.4前後で安定。笠岡よりの転送もなし。」少尉「動かない、か。名前欄は？」「次回開催は未定、のままです。」「ぬけぬけと…ほぼずつと未定だろうに。」「全く。彼女…今頃はお母さんとのんびりしてますかね？」「久しぶりの親子水いらずで元気になるといいな。」

母「まつたく…こんな雑誌ばあ貯めて。読まんとなら捨てんね！」
二曹「ああもう、そのままにしておいてよ！まだ読んでないと何か欲しいもんの記事とかあるっちゃけん！」「そんな言いよつたらいつまでも片付かん！女の子なんやから部屋はいつも綺麗にし！」
「ぐちゃぐちゃではないんやしええやん。」

軍曹「明日はまた熊野中尉ですか？」少尉「そうなるな。何かあれば携帯にかけろ。多分すぐ出る。」「…色っぽい予定入れましようよ。」「こればかりはな…相手のあることだ。パソコンを使うようには行かん。」「…同じですよ。お互いのハードとソフト。スペック。費用対効果…最後は好み、です。」

軍曹「フタヨン回る。全て異常なし。」少尉「ご苦労。たまには私が入れよう。コーヒーでいいな。ミルクは1個、砂糖は2本？」「いや！いいですよ！自分やりますから。」「君には色々気を遣わせてるみたいだからな。せめてものねぎらいだ。」「不吉な…地球でも終わらなきゃいいけど。」「…あのな。」

母「なあ、みーちゃん。」二曹「なん？」「あんた賢いけん…お母ちゃんに分からんような不安や悩みを抱えてしまうこともあるやろな。」「…。」「そんな時はな、心の声にしっかり耳、傾けて…後

から後悔しない道を、ちゃんと選び。「…うん。「…どうなっても、お母ちゃんあんたの味方やからな。」

二曹「お母さん…。「母「ん?」「…ありがとう。「…なんね…それはこっちの台詞よ。みーちゃん。うちの子に生まれて来てくれて、ありがとう。ほら、はよ寝。治る風邪も治らんよ。「…うん。…お休み。「…お休み。」

軍曹「お疲れ様でした。」少尉「明日：実質君が室長代行だ。万一ポエム24があつたら…。「分かつてます。粗相のない範囲で上手くやります。「…頼む。「…二曹にいいとこ見せたいし。「…まあ、いよいよとなつたら電話しろ。「…平気です。二曹がいれば少尉はむしろ…。「…邪魔で悪かつたな。」

熊野「じゃあ、お先に。お疲れ様。」軍曹「お疲れ様でした。「…二曹「お気をつけて。「…二曹「やはりいつもああなんです。あの人。「軍曹「まあね。居てもここじゃ役に立たないし…はけてくれたほうが気が楽だ。「…少尉は今頃なにをなさってるでしょうね。「…新作モノマネの練習とかかな?」

二曹「お疲れ様でした。「軍曹「ご苦労さん。今日もお母さん迎えに来るの?」「いえ、母は実家の方に。「…じゃあ良ければ…。「…駅まで送って頂けますか?」「えっつ?」「私誤解してました。軍曹…。「…二曹。「…てつきり私に言い寄ろうとしてるんだと。「…。「…普通にいい方だったんですね?」

軍曹（…このパターンで来たかー。）

軍曹「…ま、いつか。「二曹「…何がですか?くしゅ!」「…まだ本調子じゃないんだね。「…昨日よりずっと楽ですけど…鼻がまだ。」

「早く乗りな。エアコン強めにかけるから」「はい。」「掴まれ二曹。まくるぞお。」「いえ。普通に安全運転して下さい。」「

軍曹「ＴＬに関連ツイートなし。メロンパン値０．８前後で細動。」「
二曹「笠岡沈黙。７１２部隊も本日は短歌POSTなし。」「少尉「
うん。フタヨンまでもう少しだが：油断はするな。」「二人「了解。」「
【ウイーン】「邪魔をするぞ。」「少尉「：石野情報大佐！」「軍曹「
え？新司令？」「二曹「：あの方が：。」「

少尉「：ご無沙汰しています。情報大佐。髪：短くされたんですね。
「石野「直れ。状況中にすまん。久しぶりだな、一曹。いや：今は
少尉か。」「七年ぶりですが：大して出世できず恥ずかしい限りで
す。」「謙遜するな。報告書を見た。貴様らしい活躍ぶりではない
か。」「：類無き部下あればこそ、です。」「

石野「：この部屋から一步も出ず、たった三人で：使ったものと言
えば弾丸一発と鼠のオモチャと一本背負いだけで、クーデターを防
いだらしいな。」「二曹「一本背負いじゃなくて大腰：」「軍曹「シッ
！」「少尉「備品の端末を一台おしゃかにしました。クーデターも実
態があつたかどうか：大層な事は何も。」「

石野「クーデターや無差別テロを防ぎ、犯人を殺さず捕らえて：昇
進も昇給もなし。情自の人事制度は抜本的改革の要ありだな。」「少
尉「：いえ。そんなお話があつたとしても辞退したでしょう。：私
がもっと用心深ければ：中将は亡くなられずに済んだかもしれませ
ん。」「：自分を責めるな。不可抗力だ。」「

軍曹「お話中申し訳ありません。フタヨン回る。ＴＬ異常なし。メ

ロンパン値自然界レベル。」二曹「笠岡依然沈黙。兆候、ありません。」少尉「了解だ。一息入れよう。情報大佐はブラックにミルクを三滴、ですか?」「憶えているとは…まめな男だ。今の恋人もさぞ幸せだろう。」「…生憎と独り身です。」

少尉「今夜は何故こちらへ?着任は明日付けだったのでは?」石野「新しい職場の下見に…という建前で、本当は貴様の顔を見に来た。」二曹「っ?」「軍曹」…。「少尉」…部下の前でからかうのはご遠慮下さい。二人がリアクションに困っているではないですか。」「すぐ赤くなるその顔を見に来たのさ。」

少尉「お人が悪い。昔のまんまでいらっしやっる。」石野「単刀直入に言おう。私はここに貴様をさらいに来た。南スーダンに自治区を創って暫定統治する。情自の主管でな。賢くて仕事の早い貴様のような人材が欲しい。…少尉。私と一緒に来い。上官と部下じゃなく、パートナーとして…私を支えてくれ。」

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

二曹【ガタツ！】軍曹「あ！【ガチャン！】あーあ、すみません！
コーヒーひっくり返し返しちゃって…二曹、片付け手伝って。」
…。「ほら、早く！」少尉「火傷してないか？気を付けたまえ、
軍曹。」「大丈夫です。お騒がせしました。」少尉「情報大佐…先
程のお誘いは…本気ですか？冗談でなく？」

石野「冗談でこんな恥ずかしいセリフが言えるものか。私はこんな
性格だから、家庭に入って家事や子育て…なんて柄じゃないが…
学校を創りたいんだ。」少尉「南スーダンに、ですか？」「そうだ。
学校はその国の文化を造る。校長は南スの民から然るべき人物を選
ぶが…貴様には教頭を務めて貰いたい。」

少尉「私が…教頭？教員免許もないのに？」石野「そもそも教育制
度がないんだ。免許もクソもない。勿論経験ある補佐は付ける。」
「…私は教育を生業にするような人格者ではありません。」「俺は
人格者だ、なんて言っつて憚らないような奴こそ教員には向かない奴
だ。貴様なら…新しい国の基準になれる。」

石野「それに、な。私の相談役として近くに居てもらいたい。」少
尉「情報大佐…。」「この七年、色々な奴が私の隣に居た。皆優秀
で面白い奴ばかりだったが…結局貴様ほどじっくり来る男はいなか
った。」「私は…」「なに、返事は急がん。三月の年度末までは私
もこの司令だ。それまでに考えておけ。」

石野「今日…この後は空いているか？」少尉「は、特に予定はありません。」「久しぶりに一杯付き合え。貴様に聞かせたい話がある。」「それは喜んで。」「軍曹と二曹だったな？君達もどうだ？ワリカンなんてケチなことは言わんぞ。」「二曹…折角のお申し出ですが実家から母が来ておりまして。」「

軍曹「すいません、自分も約束が…。」「石野「そうか。残念だ。私の知らない少尉の様子を色々聴きたかったのだがな。次は付き合え。君らの上官の新米の頃の話聞かせてやる。」「軍曹「了解。」「二曹「またお声掛け下さい。」「石野「うん。少尉。私は執務室にいる。終わったら迎えに来い。」「了解です。」「

軍曹「お疲れ様でした。」「二曹「お疲れ様でした。」「少尉「ご苦労。軍曹、二曹を駅まで送れ。」「軍曹「了解。」「二曹「少尉、あの…。」「ん？どうした？」「…いえ、なんでもありません。」「そうか。…二人とも気を付けて帰れ。」「二人「了解。」「

軍曹「…なんかすごい人だったなあ、新司令。綺麗な人なんだけど…。」「二曹「私、キライです。あの人。」「自分も苦手なタイプだ。仕事はできそうだけど…あのちょっと強引な感じ。なんか喋りとか少尉に似てたよね。」「それ、多分逆です。少尉があの人から…学ばれたんでしょう。」「…そうだね。」「

軍曹「帰ろう二曹。冷えるよ」「二曹「はい。」「

軍曹「…お母さん、お家にはいないんだろ？」「二曹「軍曹こそ約束がある、なんて。」「だってあの二人の間に挟まれないよ。」「…ですね。」「それに二曹が独りになっちゃうし。」「…有難うございます。」「…なんの。普通にいい方としては挨拶レベルさ。」「軍曹…。」「

二曹「ラジオ、ホワイトノイズですよ？」軍曹「あ、違うよ。iphoneから曲が飛ぶようにしてあるんだ。なんか聴く？」「曲はどんなのが？」「アニソンか特撮かデスメタル。」「遠慮しときます。」【ザザザ夜の】「あれ？なんか拾った。」【ポエム25…テーマ…】「テーマ？…ポエム25？」

【キキイ！】二曹「きゃ！」軍曹「ゴメン！けど！」【ザザの、ガワです…ザ…】軍曹「ガワ？こいつが主催者？」二曹「ノーベル安易賞をあげたいですね。」「に、してもラジオとは…ネットの検索に掛からないわけだ。」【…優勝の…賞金…万円…】軍曹「ちょっと待て…優勝？」二曹「今…賞金って？」

軍曹「この声…合成音声？ボーカロイドかなんかだな。リアルタイムで変換しながら電波に乗せてるんだ。」二曹「…少尉に報せます？」「いや、今はマズイ。…明日にしよう。」「詩や歌に優劣を付けて賞金まで出すなんて…。」「気に入らないな。少尉の許可が降りたら…調べてみよう。徹底的に…さ。」

二曹「笠岡より入電。4時POST。」少尉「焼肉…か。」軍曹「いいですね。12月の親睦会は焼肉にしましょう。」少尉「毎月やるつもりか？」「少尉の減俸期間、三ヶ月でしたよね？」「なるほど…払う気ゼロか。」二曹「私は払います！くしゅ！」少尉「いいさ。元々減俸分だ。…風邪、早く治せよ。」

軍曹「昨日はどうでした？少尉。その…いい感じでしたか？」少尉「すごく他意を感じるが…悪い感じでは無かったぞ。」二曹「…。」少尉「にしてもポエム25を名乗っておきながら言葉に優劣を付けて金をかけるとは。表現は自由だが、ポエム24の支援者として一言、言いたいな。…何か分かったか？」

軍曹「サブAに出します。…多分こいつですね。」少尉「ハンドル
ネームgawarack?まんまパクリだな。」二曹「アイコン…
黄色いタヌキ?微妙にリアル。酷いセンス。」軍曹「タヌキの頭の
上…にくまん?あんまん?絵面じゃ何まんかわかんねーし。」二曹
「…なんか全体的にイラつとしますね。」

軍曹「ホームページ…手抜きだなあ。メールアドレス…次回テーマ
これだけ?」二曹「メアドに作品を投稿するんですね…テーマ『羽
根アリ』?なんでまた?」少尉「…取り敢えず一般参加者のふりを
して投稿してみるか。」軍曹「少尉、羽根アリで一首お願いします。
」「構わんが…大した歌は詠めんぞ?」

飛ぶ先は恋の実りか無駄死にか 命閃く羽根アリの羽根 #tan
ka #jthanka #短歌

軍曹「テーマの割にはいいんじゃないですか?」少尉「…なぜ上か
ら目線で評論家肌なんだ?」二曹「私は好きです。」少尉「同情は
いらん。」二曹「同情なんかしてません。本当に…好きです。少尉
」「…有難う。」軍曹「じゃ…管理室名義の一般PCから。メール
します。」少尉「頼む。」

軍曹「はじめまして!ガワさん。初めてお便りします。私ミソラ3
22と言います!ポエム25の話を友達から聞いて参加したくなり
ました。やり方が分からないので取り敢えず一首、テーマで読んだ
短歌をお送りしますね?」少尉「軍曹:ネカマ慣れしてないか?」
「ずっと公務員だった訳じゃありません。」

少尉「…返事待ち、か」二曹「笠岡から入電。メインに出します。」
少尉「孤独な帰宅と、自室の虚無感…か。」軍曹「身につまされま

すね。「二曹「はい。」少尉「概ね同感だ。」軍曹「いつそ三人で暮らしますか？」少尉「断る。」二曹「私もイヤです。」軍曹「冗談ですよ。」

軍曹「内線1番501は…守衛室ですね。出ます。はい。備管別。

…え？本人がですか？待つて下さい。少尉、珍しい客です。笠岡通信研究所の遠藤准教授。見学希望とか。」少尉「ちよつと待て。通研は民間だ。副司令の許可がいる。…全く、学者はどこか浮世離れしていて困る…。忙中すいません副司令…」

遠藤「いやあ突然すいません。」少尉「ようこそ、と言いたいですが…我々の活動は機密性が高い。部活のOBのノリで来られては困る。以後、事前に連絡を下さい。」「申し訳ないです。一緒に飲んでからこつち…早くまた皆さんにお会いしたくて。愛媛の実家から初物の蜜柑が来たんで…持参しました！」

少尉「それは…有難いですが、時間が…今は状況中です。せめてフタヨン…零時を越えてから来て頂けたら、もう少しましな歓迎ができるのですが。」「遠藤「あぁっ、そうですね？すばるの予報も最後に見た段で24%だったので…今日はもうないかと。」「時間まで確実に監視するのが我々の任務です。」

遠藤「はい…軽率でした。以後気を付けます。」「少尉「ご理解頂けて幸いです。」「へえ、ここが…備品管理部別室かあ…大つきいメインモニター、カッコいいですね。」「軍曹「ご無沙汰、いつちー。」「その節は…噂で聞きましたが大変だったみたいですね。」「まあね。ゆつくりして行きな。」「はい！」

遠藤「ここが…仲本さんの席ですか？」「二曹「今晚は。実は暫定の飯の席です。私の席の端末は、例の一件の時にクラックの煽りを喰

つて燃えちゃったので。「燃えた？クラックで？」「私も驚きでした。初めて本番で消火器使いましたよ。」「どれだけ強力な攻撃フォームなんだよ…すごいな、備管別は…。」

遠藤「新しい司令は？もう帰られました？今日からでしょ？」「少尉「よくご存知で。まだいらっしやいます…ほいほい連れて行つたりしませんよ。」「分かってます。すごい美人だつて聞いたので…一目お会いしてみたくつて。通研も三原観測所も美人司令の噂で持ちきりですよ。」「二曹「…男の人つて。」

軍曹「お疲れ様でしたー。」「二曹「お疲れ様です。」「少尉「ご苦労遠藤准教授、蜜柑有難うございます。早速帰つたら頂きます。」「はい、どうぞ！」「仲本さん、駅ですか？」「二曹「え？はい。」「送りますよ。僕あつち方面なんです。」「有難うございます。」「チツ少尉「…今誰か舌打ちしなかつたか？」

軍曹「なんか…備管別に出入りする人、増えましたね。」「少尉「ああ、とても機密情報を扱う部署とは思えん。」「新しいメンバーの協力も得て、ポエム24のない日の間を埋める…という仕事にも慣れて来ました。」「軍曹「滅多な事を言うな。」

軍曹「…そろそろ一人くらい減つたりして。」「少尉「…誰か減つて欲しい人物でもいるのか？」

二曹「TLに関連ツイートなし。メロンパン値0.8〜0.9前後で微動。笠岡沈黙。転送、ありません。」「少尉「了解。…軍曹は休みで今日は一人だが、問題ないか？」「はい。やはりTLが絡むと…状況が刻々と変化するのでやや忙しいですが許容範囲です。」「

まだ先は長い。無理はするな。」「了解。」「

二曹「TL異常なし。メロンパン値、直近3時間は1以下で推移。笠岡よりの転送ありません。」「少尉「うん。…備管別も三人体制が板に付いて来たな。二人ではどこか物足りない。」「軍曹「派手な外見では決してないですけど、なんか存在感ありますもんね。」「

二曹「笠岡より入電…。！このツイートは…！」少尉「明らかに様子がおかしい…。」「【トゥルル：ガチャ】「私だ。准教授？ああ。今見ている。…開発段階の…？いや、構わない。結果を送ってくれ。」「笠岡はなんと？」「開発中のツールでツイート内容から頼杖のステータスを推計してくれるそうだ。」「

二曹「笠岡より入電。ヒューマノイドの推計ステータス。メインに出します。」「少尉「HP…6、MP…1、か。数字自体もオレンジ色。」「ただ、これだけでは…。」「ああ。しんどそうで、肉体より精神のダメージが大きい、と読み取れるが…何分それぞれのポイントの最大値が分からん。判断し辛いな。」「

二曹「続いて転送。」「少尉「自クラスタに対して荒ぶっている…。狐に何が起きた？メンタルストレス…の繰越分過積載か？」「仕事で何かあったんでしょうか。」「…辛いのだな、狐の中の人も…。」「

二曹「お疲れ様でした。」「少尉「ああご苦労。二曹、実は…。」「【プー！】少尉「あの車は…。」「二曹「遠藤准教授ですね。」「遠藤「仲本さ〜ん！これ！これ！」二曹「あ！私のハンカチ。」「助手席に落ちてて。」「わざわざすいません。…もうついでに送っちゃって下さい。」「少尉「…なんか投げ遣りだな。」「

【主催者ツイート】

お題を決めて24時にポエムPOSTする遊び 『ポエム24』
31回目の今夜のお題は春さん (@HALbit5) 提供

『ことば』

参加表明不要の自由参加です。 #poem24 のタグをつけて
下さい。お題そのものは入ってなくてもOKです。

石野「邪魔をするぞ。」少尉「司令!」「ぜひ一度見ておきたくて
な。噂のポエム24を。」

軍曹「暗転します!」

少尉「アナウンス魚雷、発射よーい!」二曹「了解、1番から8番
注水。発射管開きます!」

二曹「誤差修正。俯角マイナス2度。仰角そのまま。」

大変長らくお待たせ致しました。
間もなくpoem24の開演です。

今夜のテーマは「ことば」。
今宵も、今日と明日のはざまに煌めく詩と歌の競演を、どうぞごゆ
っくりお楽しみ下さい。

#poem24

二曹「アナウンス発射よし!」少尉「投稿POSTよーい!安全弁
外せ!」

「ことばにはできない」なんて言うけれど 「すげえ好きだ」と言

えばいいだけ # tanka # jtank a # 短歌 # poem 24

軍曹「通常T.Lへの反映確認。クラスタT.Lへの反映確認できず。」
少尉「タグを再確認の後、日本語タグを削除して再投稿、急げ！」
軍曹「了解！」

「ことばにはできない」なんて言うけれど 「すげえ好きだ」と言
えばいいだけ # tanka # jtank a # poem 24

石野「なるほど…総理が入れ上げるわけだ。」少尉「え？総理が…
ですか？」「知らなかったのか？熱心なファンだという話だぞ？」

軍曹「クラスタT.Lへの反映確認。」少尉「よし全セクション、デ
フコン解除。チェックシートエンスの後、通常ソフトへ。」石野「
少尉、備管別のクローズが終わったら執務室へ。ポエム24につい
て幾つか確認したい。」少尉「了解です。」二曹「…：もう。」軍
曹「し！」

712中隊旗艦 ますらお艦橋

副長「今回はギリギリでしたね…。」艦長「副長。君は神を信じる
かね？」「いいえ…私は。」「わしは信じるよ9分の差で…ポエム
24に参加できた。神は言っている。『汝、我が導く地へ往け。』
と。」「お言葉ですが…非合理的、かと。」

軍曹「少尉にも怖い物とかあるんですか？」少尉「あるさ。」「石
野司令？」「あの人は…物言いが不器用だがその実、可愛い人だ。
私が怖いのは、いざという時その場に居ないこと、だ。」「自分の
怖い物も訊いて下さい。」「…まんじゅうか？」「スライム肉まん
…気になります。」「…茶でも飲んでろ。」

艦長「僚艦は何隻残っているか？」副長「本艦と戦艦4、空母1、重巡6、軽巡5…計17隻です。小型艦は全滅。」「…そうか。善戦したな…。」「この二日のRBSの攻勢は今年度では最大規模でしたから。17隻残存したのは寧ろ幸運と言えます。」「冷たいな…副長。海征かば…水漬く屍、か。」「

二曹「笠岡より入電。メインに出します。」「少尉「ストレスが粘膜炎器官に…推計ステータスは？」「貼付されています。HP11、MP41。」「回復はしてるようだが…。」「続いて712艦隊より入電。」「土日の激戦でかなり大きなダメージ…。」「辛いですね…社会人は。」「生きる事は戦いさ。」「

軍曹「笠岡より入電。」「少尉「今から出社…夜勤か。」「何時上がりなんでしようね？」「何時上がりでも夜勤明けの一日は、無いのと同じだ。全てが半端になって結局何もできなかつたりしてな。」「…少尉。どんなバイトしてたんですか？」「私にも…思い出しにくいことはある。」「

軍曹「おはようございます。少尉。」「少尉「おはよう。変わりはないか？」「室長宛てに郵便が幾つか。」「二曹は遅番だったな…ん？」「どうしました？」「差出人のない封書。切手も消印もない…これは…。」「見せて下さい。うわ！脅迫状？」「手ヲ ひケ ぽ エム25かRA』。」「…こう来たか。」「

軍曹「切り抜き活字の貼り合わせ…昔のサスペンスかコナンみたいですね。」「少尉「今時…だな。ガワって奴はそれなりに年配なのかもな。」「情報発信もラジオですしね。昭和の臭いがします。調査

は…中止に？」「シャバい脅しに一々構ってては備管別は勤まらない…参加者に接触を試みよう。」「了解。」「

軍曹「ポエム25に興味のある第三者のフリをしてTwitterで質問、拡散依頼。並行して知恵袋に登録しました。」「少尉「中央郵便局に連絡して東福山駅周辺の違法電波の状況を問い合わせる。」「郵便局？」「電波通信の主管は郵政省だ。」「了解。」「…ガワ。きつちり文句を言ってる。」「

軍曹「中央郵便局電波通信課より回答。ここ半年、120メートルバンド…2300～2495MHzの周波数帯域の違法放送が週1回から2回のペースで観測されているようです。ただ一般に使用されていないチャンネルで実害がない為、事実上放置されているようですが。」「少尉「中波短波の境界…成る程。」「

少尉「違法電波…ペースや時間帯に法則性は？」軍曹「そう言われると思つて直近二ヶ月分のデータを貰いました。メインに出します。」「…曜日や日付はマチマチだが…開始時刻は決まってマルチト。25時から、か。」「曜日は土曜と日曜の未明が多いですね。深夜企画らしく。」「ポエム25…尻尾は掴んだぞ。」「

軍曹「放送周波と開催タイミングが分かれば…放送自体を聴いて、参加者のハンドルネームをTwitter等で追いかけるわけですね。」「少尉「その通りだ。判断が的確で速いな。情報技術も一流。…私はいつでも引退できるな。」「そんな…少尉には居て貰わないと困ります！二曹も辞めちゃう？」「…。」「

二曹「おはようございます。」「少尉「おはよう。」「軍曹「あれ？マスキ…それにその声…。」「二曹「完全にこじらせてしまえばした…でも平気です。任務には支障ありません。あ…。」「【フラツ】少尉

「おつと。」二曹「あ…少尉。」「大丈夫か？顔が真っ赤だ。体温も…高いようだぞ。」「だ…大丈夫です。」

少尉「そうは見えん。今日は上がったらどうだ？」二曹「大丈夫です！午前中に病院も行って来ました。」「しかし…。」「大丈夫です！」…分かった。ヒトナナまで様子を見よう。その時点で私が無理と判断したら帰れ。いいな。」…了解。」軍曹「二曹。ポエム25の進展、引継ぐね。あれからさ…。」

二曹「712艦隊より入電。単発の短歌。」少尉「今日、何首目だ？」二曹「え…三首目ですね。」…大分回復して来た、ということだな。狐の様子は？」軍曹「関連ツイートなし。メロンパン値上限1.1mrpで推移。」二曹「笠岡よりの転送もなし。」少尉「…狐たちの沈黙、か。」

軍曹「二曹。」二曹「…。」二曹「二曹【ぼー…】」二曹「つてば！」「あ！はいっ！」「なんか来てるよ。笠岡から。」「え！あ…かつ笠岡より入電！三時、じゃなかった、四時POST。…すいません。」少尉「二曹。今日はもう上がれ。命令だ。」二曹「…はい。」軍曹「ゆっくり休んで早く治しな。」

軍曹「笠岡より入電。」少尉「フォロワーとの距離感、か。」「つかず離れずが丁度良い、つてことですね。」「君という惑星を好く月だから 周りを回る 付かず離れず、だな。」「柊野浩一ですか？」「いいや。私だ。」…。」軍曹「何とか言え。」

軍曹「笠岡より入電。」少尉「仲間との別離、か。」「あれ？…恋人の話では？」「ああ…そうも取れるな。」「もしかして…少尉と司令とか、丁度こんな感じだったんじゃないですか？」…司令と付き合ってた、と言った覚えはないぞ。」「明確に否定しないのは、

肯定したのと一緒ですよ。」「……。」

二曹「TLに関連ツイートなし。メロンパン値1.3m r p以下で細動。笠岡沈黙。712艦隊からも報告なし。」少尉「うん。昨日の今日だが…体調は悪くないようだな。」「点滴が効いたみたいです。あと鼻だけまだ…今日は軍曹休みですし…いつまでも甘えられません。」「甘えてるとは思っていないさ。」

二曹「フタサン回る。TLに異常なし。メロンパン値自然界レベルで微動。笠岡沈黙。712艦隊は題詠に参加の模様。…しゅん。」少尉「気を抜くな。引き続き監視を継続。二曹。辛くはないか?」「問題ありません。…鼻が詰まる以外は。」「…あと少し。頑張ってくれ。」「了解。」

二曹「お疲れ様でした。」「少尉「ああ、ご苦労。」「結局今夜もポエム24はありませんでしたね。」「ペースを下げる、と言うツイートの通りだな。…駅まで送ろう。二曹。」「え?」「嫌か?」「いえ…念の為、もう一度言っただけいいですか?」「良ければ駅まで送るぞ。…何をキヨロキヨロしてる?」

二曹「割って入る誰かが居たりしないかと。」「少尉「生憎と二人きりだ。」「違います、そう言う意味では…。」「実はな、私は前から一度…君をちゃんと送って謝りたかったんだ。」「謝る?何故ですか?」「君が初めて備管別のヘルプに来た夜。私は君に無礼な態度を取って歩いて帰らせた。覚えてるか?」

二曹「はい。でも…あれは…。」「少尉「軍曹の言う通り。何かと勘繰り過ぎる嫌いが私にはあるようだ。高木少佐の事件の後でナーバスになってたとはいえ…結果的に味方の君を敵扱いして無責任な言

動をしたことを…許して欲しい。すまなかった。「少尉、ちょ…
やめて下さい！どうかお顔を上げて。」

二曹「許すもなにも…謝らなきゃいけないのは私です。事件が終わるまで、自分を偽って…。少尉と軍曹を…騙していて。「少尉」それが君の任務だ。君が謝る筋合いはない。「なら少尉のなされた態度も部署の責任者として…いえ、優秀な情報エージェントの態度です。少尉が謝る筋合いじゃありません。」

少尉「こうして話してみると互いに小さなわだかまりを抱えていたんだな。「二曹「みたいですね。」「もっと早くこういうタイミン
グが取りたかったんだが…間が悪くてな、随分時間が掛かってしま
った。あの晩の分と言う訳じゃないが改めて駅まで…」【パンツ！
パンツツ！】少尉「ぐ？」「二曹「…え？」

【ドサ！】二曹「少尉？…少尉！しっかりして下さい？ そんな
嫌…少尉！少尉いいいっつ？」

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

二曹「少尉！しっかりして下さい！少尉？」軍曹「…大変だ。」
 軍曹？ 今日はお休みでは？」【ドルン…ルルル…】二曹「バイク？犯人が逃げる！」軍曹「追うな！それより少尉だ！救急車！住所、分かるね？」「はい！」「少尉聞こえますか？圧迫止血します。痛いですが堪えて下さい。」少尉「う…」

少尉「軍…曹。」軍曹「はい。ここにいます。」少尉「二曹は…無事か？」二曹「はい…。」少尉「…はんに…」軍曹「なんです？…レイノニ？」少尉「ポエ…ム25…フォックス！ぐうっ…ハンティン…グ…」軍曹「少尉？…冗談でしょ…自分はまだ約束を果たしてない！目を開けて！少尉！少尉？」

軍曹「…いえ。バイクが走り去る音だけ…男か女かも…まだ手術中。はい。ご連絡します。司令には？…分かりました、失礼します。」二曹「副司令はなんと？」「すぐこっち来るって。」「…。」
 「そんな顔すんなよ。あの人が簡単に死ぬもんか。」「でも…！」
 「…大丈夫。少尉は死なない。絶対。」

石野「軍曹、二曹、ご苦労。」軍曹「司令？」石野「少尉の様子は？」軍曹「運び込まれたまま…手術中です。」石野「警察への通報は？」軍曹「まだです。」【ピ・ピ・ポ】石野「情報自衛隊福山基地の石野です。30分程前に敷地内で部下が銃撃されました。…はい。当人は救急車で市民病院に運ばれ…」

大槻「…お疲れ様です。」石野「遅いぞ。有事即応が我々の原則だ。」大槻「申し訳ありません。以後、気をつけます。…大変だったな。」軍曹、二曹。「軍曹「いえ…。」石野「ここは副司令と私が詰める君らは帰って休め。明日も仕事だろう。」軍曹「いえ。…帰りません。」二曹「私も…ここにいます。」

石野「やれやれ…少尉はどうやらいい部下を持ったようだ。かと言って両名とも寝坊や遅刻は許さんからな。そんな体たらくを晒したら厳しく処分する。五分前に来るつもりで起きろ。」二人「了解しました。」石野「…私の許可なく死んだりするなよ、少尉。生きて備管別に戻って来い。これは…命令だ。」

軍曹「落ち着きなよ二曹：歩き回っても二曹がしんどくなるだけだよ。」二曹「……………」軍曹「わ！ちよ…泣くなよ！」二曹「だって…少尉がもしも…。」石野【ぎゅ。】二曹「！…司令…。」石野「大丈夫だ。奴は馬鹿がつく程真面目な男。職務や部下を中途に放棄して…他所に逝くような真似はせん。」

石野「夜明けか…。」大槻「長いですね。」軍曹「あ、ランプ…消えました…。」二曹【ごく…】医師「……………」石野「患者の上官…情報自衛隊福山基地司令、石野です。ドクター、彼の容態は？」医師「当座一命は取り留めました。しかし予断を許さない状況です。患者のご家族に連絡を取られましたか？」

石野「彼の所属部隊は秘匿性が高いので、任務中に万が一があっても結果が出た後に家族に通知が一通送られるだけです。それは当人も家族も了承しています。」医師「そうですか…。厳しいお仕事ですね。」大槻「彼の受けた傷の状態は？」医師「こちらへ。画像で説明します。」

医師「患者は大口径の弾丸を近距離左後方から二発、受けています。画像は胴体を正面から撮影したものです。ここと、ここ。白くなってる部分が開放創。二発とも貫通しています。」軍曹「入射創と出射創の高さがほぼ同じ…同じ地面に立つ奴に水平射撃で撃たれた…ってことか。」二曹「やつぱり…あのバイク。」

医師「一発は左肩の肩甲骨を貫通し、左胸から抜けてます。こちらは完治に時間は掛かりますが命に関わる傷ではありません。問題は…。」石野「もう一発…左肺を貫通してる。」医師「ええ。幸い弾は綺麗に抜けてるので…肺自体のダメージはさほどでは。今は肺に溜まる血や水を管で抜いている状態です。」

医師「正直ここからは本人の体力次第です。感染症や合併症に注意しながら意識が戻るのを待つしかありません。」軍曹「意識が戻ったとして…また元気になりますか？」医師「…出血が多かったのですが…なんとも。容態が安定したら脳の状態をCTしてみますが…今すぐは無理です。覚悟はしておいて下さい。」

大槻「肩甲骨を貫通…9mmではありませんね。恐らく45口径のACP弾でしょう。」司令「ガバメントか…黒星拳銃か。公務のエンジニアントより民間の…ヤクザの装備だが、それを装う欺瞞かもな。単独犯でバイクで逃走…というのも、本当に単独か…組織だとしても小規模と思える。」

大槻「45口径を二射して二発とも当ててる。…犯人は素人ではないですな。」石野「どうかな…拳銃の射撃は運も絡む。それに少尉はまだ生きています。例えば、殺しを生業としたプロとも思えん。もしそうなら狙うのは頭だった筈だ。二発と言わず二曹もろとも…それこそ弾が切れるまで撃っていたらどう。」

石野「ドクター。ありがとうございます。午後から入院費治療費の相談にこの大槻が参ります。これは私の名刺です。何かあれば私か副司令、大槻に連絡を。」医師「分かりました。」石野「さて…軍曹は一度帰ってヒトフタから出勤しろ。二曹、すまんがこの後、警察の聴取だ。終わったら…今日は休め。」

軍曹「了解。」二曹「…了解。」石野「大丈夫か？二曹。ひどい顔だ。聴取は明日にでもらおうか？」二曹「大丈夫です。記憶が薄れない内の証言の方が…犯人の手掛かりになる可能性も高くなりますし。」石野「…気丈だな。無理はするな。」二曹「少尉を撃つた犯人…許せません。捕まえませ。絶対に。」

軍曹「司令。」石野「なんだ？」「倒れた少尉が切れ切れに自分に言ったことがあります。良くは聴き取れなかったのですが…『犯人』『レイノニ』『ポエム25』『フォックスハンティング』、と。」
「…ふむ。出勤したらメールベタ打ちで報告をくれ。まず事実。それから君の主観や気づき、で纏めてな。」

軍曹「了解。」石野「少尉は…そんな場面で無意味なことを言うような男ではない。何か犯人に繋がるメッセージだ。それは私や副司令よりも、君や二曹の方が意味を汲み取り易い筈だ。報告は私に直接でいい。間違っても遠慮などするな。」
「了解。」
「分かったら帰って寝ろ。すぐヒトフタになるぞ。」

軍曹「二曹。悪いが先に上がるよ。」二曹「はい。…ありがとうございます。ございました。あの場に軍曹がいなかったら、私一人じゃ…。」
「たまたま、さ。今日はゆっくり休みなよ。風邪治り切っちゃいけないんだろ？」
「はい。」
「少尉も君が苦しんだりするのを望んじやいない。休むのも仕事と…ね。」
「了解。」

軍曹（犯人…レイノニ…ポエム25…フォックスハンティング…。少尉。どうせならもつと分かり易いヒント下さいよ…。）

軍曹「感あり。フォックス型通信。」司令「ほう…こんな時間からな。我々の都合はお構いなし、か。」軍曹「メロンパン値上昇。2…25…30…なお上がる。」司令「風はすぐ吹く…だな。」

司令「712艦隊は？」軍曹「RBSを迎撃準備中。間もなく会敵の見通し。」「一報は入れておけ。今夜は…間に合わないかもしれないな。」「戦闘がフタヨンをまたぐこともザラですからね。」「戦いは非情、だな。」

【主催者ツイート】

本日のポエム24、「このひとのお題でやりたい！」的な要望を募集します。票が集まったひとに突撃してきます。かなり票が割れそうなのである程度独断と偏見が混じるかもです。採用できない可能性がでかいのでお気軽に。著名人は勘弁してください。あと突撃して怒られたら慰めてください。ではどうぞ。

艦長「時間だ。全艦第一種戦闘配備。砲雷撃戦よーい！短歌魚雷全管装填。発射管開け！」副長「RBS、急速に接近。コンタクトまでおよそ2分。」艦長「全管発射！全砲門各個に迎撃開始！」

【主催者ツイート】

お題を決めて24時にポエムPOSTをする遊び 『ポエム24』
32回目の今夜のお題ははすむかいさん (@hasmkai)

提供

『焦燥(感)』

参加表明不要の自由参加です。 #poem24 のタグをつけて下さい。お題にまつわる内容であれば単語そのものは入ってなくてもOKです。

遼 (@ryoozero)

11/12/16 23:58

大変長らくお待たせ致しました。間もなくpoem24の開演です。今夜のテーマは「焦燥(感)」。今宵も、今日と明日のはざまに煌めく詩と歌の競演を、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい
#poem24

焦燥を笑顔で隠し閉める店 20分ほど及ばなかった…。 #poem24

副長「324艦隊より入電。」艦長「返電。代行へノ尽力ニ感謝ス。貴艦ノ航海ニ幸アレ。」 RT @ryoozero こちら324艦隊！お役目は果たしましたです！！

焦燥の言葉の意味を体得す 君とあいつが歩く街角 #tanka
#jtanaka #短歌 #poem24

軍曹「…やはり、間に合いませんでしたね。」大槻「まあな。しかし324艦隊の援護が得られたのは不幸中の幸이었다。遼少将に

は借りができたな。…デフコン解除だ。」「了解。チェツクシーク
エンス47番まで確認。各セクション通常シフトへ。」「…心労が
溜まる立場だな、備管別の室長の任は。」

軍曹「お疲れ様でした。」大槻「ご苦労。」石野「終わったか。」

軍曹「司令！お疲れ様です！」大槻「お疲れ様です。無事終了です。」

石野「ご苦労。直れ。軍曹：犯人について何か分かったか？」軍

曹「いえ：出勤してすぐ狐が動いたもので。」石野「そうか…。」

軍曹「フォックスハンティング、か…。」

大槻「ほう。今もあるのか。懐かしい遊びだな。」軍曹「？…何が
です？」石野「何か知ってるのか？大佐。」大槻「は？…フォック
スハンティングでしょう？学生の頃は仲間と良くやったものです。」

秋葉原で部品集めて。」軍曹「密造銃で：狐狩りを？」大槻「何を
言っとる。銃などいらん。無線遊びだぞ。」

軍曹「無線遊び？」大槻「どうも話が噛み合わないな。フォックスハ
ンティングは狐役が発信器を、ハンター役がアンテナと受信器を持
ち、電波を使って行つた地域の鬼ごっこだぞ？」石野「電波の鬼ごっ
こ…。」大槻「高指向性アンテナで定点観測や三角測量をして狐を
捕まえる…。」軍曹「そうか！それだ？」

軍曹「ポエム25は違法中波放送なんです！周波数は割れてるから
次の放送の時に十分離れた二箇所から高指向性アンテナで三角測量
すれば…。」石野「成る程な。ポエム25の発信元が割り出せる。」

…次の放送は？」軍曹「確定ではないですが：金曜、土曜の夜の開
催が多いようです。」石野「次の夜、か。」

石野「二曹、TLの様子は？」二曹「異常なし。関連スイートなし。笠岡よりの転送なし。メロンパン値1以下で安定。」石野「狐狩りを始めよう。…こちらデルタ。エコー、状況報せ。」【ザザ】大槻「こちらエコー。現在、高増山、山頂付近。ビームアンテナ受信テスト終了。準備良し。オクレ」

石野「問題ないか？」大槻「久々の現場で年甲斐もなくドキドキしています。…昔取った杵柄、立派に御奉公してみせます。オクレ。」石野「フォックストロット。状況報せ。」【ザザ】軍曹「こちらフォックストロット。現在、権現山、山頂展望台。装備一切作動良好。準備良し。…はつくし！オクレ。」

石野「そちらの様子は？」軍曹「言って良ければ…ちよー寒いっす！風強くて耳と鼻が痛いです！二曹、コーヒー沸かしといて。オクレ。」石野「よし。各員現状で待機。前後の状況からみてポエム25の首魁と思われるガワと言う人物は少尉銃撃の重要参考人だ。捕まえて洗いざらい話を聞こうじゃないか。」

石野「エコー、フォックストロット。耐弾ベストの着装と9ミリ拳銃の実包装填を再確認。有事には柔軟に独自の判断で脅威を排除…自衛にあたれ。少尉は実際に撃たれている。観測作業中も注意を怠るな。」大槻「了解。」軍曹「了解。」二曹「作戦予定時刻まで残り5分。」石野「さあ姿を現せ。二セ狐。」

二曹「マルヒトまであと10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、作戦スタート。」【ザザ】大槻「こちらエコー。コンタクト！該当電波探知方位…ほぼ真東…2時59分方向。データを転送します。」【ザザ】軍曹「え？副司令早い！こちらフォックストロット。現在、発信源探査中。…つくよん！」

軍曹「ノイズだらけでとても聴き取れない…どれだ？ポエム25は」
大槻「落ち着けフォックストロット。受信感度をやや下げ、ノイズを消して一周…探知できなければ感度をメモリ1つ上げてもう一周だ。」
軍曹「…フォックストロット了解。」

二曹「…個人でラジオの海賊放送なんて…できるものなんでしょうか？」
石野「放送範囲にもよるが…市内丸々をカバーしようとするとならぬ設備が要る。数千万はかかるだろうな。県全域となれば一つのアンテナでは無理だ。基地局を半径3、400キロごとに設けるか、衛星通信に割り込まないと。」

軍曹「あ！…来たあっ！こちらフォックストロット！コンタクト！探知方位はほぼ真南！こつちの数字だと…6時ゼロ分15秒方向！データ転送！オクレ！…つくしよい！」
二曹「ポイント・エコー、ポイント・フォックストロットからのデータ受信確認。探知直線をメインのマップに出します。…直線交差。」

二曹「え？嘘！この場所って…。」
石野「成る程…確かに強力な通信設備と十分な高さのアンテナタワーがある。」
大槻「こちらエコー。特定できましたか？」
軍曹「こちらフォックストロット。二曹、どこだった？今から火、付けに行くわ。」
石野「やめておけフォックストロット。帰る職場が無くなるぞ。」

大槻「なんですと？…と言うことは…。」
軍曹「まさか…また？」
二曹「探査結果、転送します。該当電波の発信元はここ…情報自衛隊福山基地、です。」
石野「さて…面白くなって来たぞ。まさに同じ穴のムジナ、と言う訳だ。」

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

二曹「放送…今終わりました。現在時刻マルフタマルヨン。」軍曹「通信システムに侵入や不正アクセスの痕跡はありませんね。…どうやってウチのアンテナから違法中波なんて飛ばしてるんだろ？」

大槻「恐らくアンテナ線の何処かにクリップアタッチで端末を寄生させてるんだろ。…物理的に。」

大槻「司令、アンテナ線のライン点検が終了しました。」石野「何か見つかったか？」大槻「いえ…残念ながら。アンテナ線は施設内で多数分岐していて…壁面や天井裏、床下などに数百本の配線に分散しています。青写真で追える範囲では検査したのですが。」石野「そうか。犯人を挙げるしかないわけだ。」

二曹「すいません。また送って貰って。」軍曹「ごめんね僕で。少尉…早く元気になるといいな。」…ええ。「寄生端末、見つからなかったってさ。」…そうですか…。「で、いつから好きだったの？少尉のこと。」…え？「良かったらだけど、聞かせてよ。今後の彼女作りの参考に、さ。」……。」

二曹「じゃあ言っちゃいますけど…私がヘルプに来た初日の夜です。」軍曹「はや。」少尉に見抜かれたんですよね、私。スパイだったこと。」…ああ…なんかそんなこと言ってたな。「正直私…基本男性を馬鹿にしてたんです。」…どゆこと？「私…飛び級で首席になる程度には賢くて…。」…うん。」

二曹「で見た目が…美人とは言わないですけど純朴そうでしょ？」
軍曹「はつきり言うな…ま、否定はしないよ。」「言いよつて来る男性も…これまで何人か居たんですが、なんて言うか…みんな一緒に見えて。」「……。」「情報分析官の…スパイの仕事についてからはより一層…男つてちよろいなあ、と。」

二曹「大抵の男はちょっと思わせぶりな気のある態度して腕でも掴めば…聴いてないようなことまで自慢げにペラペラ喋り出す。」軍曹「…耳が痛い。」「少尉にも私の必勝パターンで接したんですが…ズバリ言われたんですよね。『君は誰だ？一体何を調べてる？』つて。」「少尉…無駄にかっこいいな。」

二曹「私…嬉しくなっちゃつて。」軍曹「嬉しく？正体ばれたら任務失敗、じゃん。」「もちろんそうなんですけど…誤魔化しようはあります。それより何より、ああ…こんな男の人もいたんだーってカルチャーショックで。ついその時にこにこしてしまいました。」
「成る程ね…。なんか納得だわ。」

二曹「あ、ここです。後は歩きます。」軍曹「ほーい。気を付けてね。」「ありがとうございます。お休みなさい軍曹。」
「また明日。」

軍曹（……ちえつ。）

大槻「間違いない、か？」軍曹「間違いありません。ツイート内容、ネーム欄、ともにポジティブ。メロンパン値70代後半で動揺。ただ…24日の後に疑問符が付いていますが。」二曹「笠岡、『すばる』の開催予想。24日開催確率96.22%」大槻「ポエミック・クリスマス…か。」

二曹「お疲れ様でした。軍曹、今日もいいですか？」軍曹「ああもちろん。」

二曹「軍曹、一つ訊いても？」軍曹「何？」「…少尉が撃たれた夜、軍曹、少尉に仰ってたでしょ。『自分はまだ約束を果たしてない』って。」「…。」「どういう約束…なんですか？」「言ったっけなあ、そんなこと。」「誤魔化さないで下さい。」「…少尉を超える情報自衛官になるって口走ったんだ。」

二曹「それは…また。」軍曹「高坊だったからね。世間を知らなかったんだ。」「え？そんな昔からお知り合いだったんですか？」「いや。自衛隊のホームページをクラックしたら黒服の男たちが来てさ。」「…。」「その一人が少尉だった。ビビったよ。完全犯罪のつもりで絶対バレないと思ってたから。」

軍曹「…もう二度としないって念書を書かされて許してもらったんだけど、別れ際に悔し紛れに言ったんだ。『いつかあんたを超える情報自衛官になってみせる！』って。」「そんなことが…。」「…でもさ、再会した時…少尉、全く僕のこと憶えてなくてさ。」「…。」「腹立つからそのまま黙ってるんだ。」

軍曹「少尉に居なくなったら困る。ハッキングの知識や腕だけじゃ、優秀な情報自衛官とは言えない。問題に対処し、人を率いて育てる能力。全体を俯瞰しながら細部を細かく視る能力。…情報うんぬんじゃなく、まず社会人として、僕は到底少尉に及ばない。」「軍曹…。」「とまあ、片思いの約束…さ。」

砲雷長「二番砲基大破！」副長「第一から第六装甲板大破。主電算

室、応答なし！」電探士「ダメです！レーダーは完全に使用不能です！」【ズズ…ンツ！】機関長「第二機関区にプラズマ雲発生！」副長「たおやめより入電、『ワレ操舵フノウ・ワレ操舵フノウ』」艦長「ぬうう…！」

艦長「全艦撤退！被害が最小限になるよう各個に防衛、最大戦速で現海域より離脱せよ！」副長「了解。全艦離脱。ポイント32-125-18にて再集結の後、艦隊を再編成。…180度回頭。両舷全速。各砲門、各砲座は各個に迎撃。艦体を死守せよ。」艦長「口惜しいが圧倒的だな…年末のRBSは…。」

@ryoozero ごめん、遼ちゃん…またアナウンス、頼んどいていい？多分…明日もとてもじゃないが12時には終わらない。

@hiromaru712 了解です！（、・・・）ゞ

@ryoozero …頼む！（^）ゞ

艦長「全艦総員に告げる。我らはこれより修羅に入る。鬼と会えば鬼を討ち、仏と会えば仏を討つ。敵するならば父、母、子であろうとこれを討つ。迷いを捨てよ。生きて祖国の土を再び踏み締める為に。Z旗掲げ！」副長「了解。全艦へ。『クラスタノ興亡コノ一戦にアリ 総員一層ノ奮励努力スベシ』！」

イルミネーション…！と、把握した所で出勤！いつて来ます？

hiromaru712 (@hiromaru712)
11/12/24 23:51

終業なう！

神様：奇跡つてあるんですね。

@ryoozero ごめん！間に合った！ギリギリまで推敲してw。

軍曹「暗転！…作動良好！」

大変長らくお待たせ致しました。

間もなくpoem24の開演です。

今夜のテーマは「イルミネーション」。

今宵も、今日と明日のはざまに煌めく詩と歌の競演を、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

#poem24

二曹「アナウンスリリース、着弾確認！」

軍曹「短歌魚雷、第一、第二装填！」

TLの聖夜零時に煌めくは うたとことばのイルミネーション #
tanka #jtank #短歌 #poem24

「綺麗ね！」に「ほんとに…。」なんて応えつつ イルミネーションなんて見てない #tanka #jtank #短歌 #poem24

軍曹「クラスタTLに反映確認。…メリークリスマス！」二曹「メリークリスマス！」大槻「…メリークリスマス。」

艦長「RBSは？」副長「振り切れません。高速巡洋艦クラス11隻が艦隊を追尾中。距離縮まる。敵射程距離が我を捉えるまでおよそ7分。別途、敵艦載機クラス急速に接近！接敵します！」【ガガーンツ！】「うわあつ！」「きゃあ！」艦長「ぐ……！」副長「艦長！大丈夫ですか？」艦長「被害状況は？」

副長「第四、第七、第八甲板付近に被弾。36番から61番までの対空砲大破。炎上中。左舷アスロックポッド故障。稼働しません。食堂及び酒保に火災発生。現在消火中。」機関長「第二蓄電曹に浸水。23番区画、状況、ガス。担当員避難の後、区画閉鎖します。ゲインは20%低下。」艦長「機関は？」

機関長「主副ともに問題なし。」副長「ダメコン作動。右舷バランスト注水。艦の平行、回復中。」【ズズ……ン！】測量長「プライド被弾！大破……いえ！轟沈です！」通信士「たおやめより入電。『ワレ自航フノウ ココニ浮キ砲台トナル カエリミルナカレ』」艦長「むう……！」

副長「艦長、血が……。」艦長「蛍光灯の破片で切っただけだ。……副長、敵の旗艦はどいつだ？」「本艦の19時方向。目測で距離約4000。」「機関を臨界まで上げておけ。いよいよとなれば本艦ごと特攻をかける。」……艦長。「あいつらを本土にやるわけにはいかん！」

副長「艦長！」艦長「どうした？」「第七ハッチが……！開いています？」艦長「何？」

艦長「やめろ、俵君！タンカイザーはまだ完全じゃないぞ！」俵「現状で10分は動きます！」艦長「しかし……亜音速戦闘は無理だ！」

俵「いざとなれば…ぶつけるまでです？」艦長「俵君…！」佐佐木
「俵。目標は飽くまで敵の主力だ！雑魚には目もくれるな！」俵「
教官…はいっ！」艦長「…佐佐木中佐！」

佐佐木「…行け？」俵「タンカイザー31…発進っつ？」

アナウンサー「…両代表は議定書にサインをした後、笑顔でしっか
りと握手。碓谷首相は、この歴史的講和条約は後にクリスマス講和
と呼ばれるだろうとコメントし…」大槻「シナリオ通りのクリスマス
ス講和、か。」軍曹「…一つの戦争の終わり。あっさりしたもんで
すね。」二曹（少尉…早く帰って来て…。）

二曹「笠岡より入電。」軍曹「…ツイート内容も年の瀬だねえ…。
少尉、年越しに間に合わなかったな。一緒に年越して、あけおめー、
とか言いたかったよ。」ハッピーニューイヤー…って気分になり
ませんね。」…うん。「…副司令に報せます？」「いや、いいだ
ろう。ログだけきつちりで。」…了解。」

軍曹「外線1番。一般回線。出るね。はい、こちら備品管理部別室。
はい。お世話になってます。…え！いえ、席を外しています…。
はい。…そうですか。はい伝えます。失礼します。」二曹「…どこ
から？」「市民病院。少尉の肺、感染症の疑いだって。無菌室入る
から面会謝絶らしい…。」少尉…。」

軍曹「…うーん。」二曹「どうしました？」「いや、今の電話の声
…なんか聞き覚えあるなあ、と思って。」入院した時の担当医の
方では？」「いや。佐藤って名乗ったし声も違う…。」…高木少
佐、じゃないですよね？」「大丈夫。それはない。…だったら怖い

よ。」

二曹「回線回復。負荷指数24.6まで低下。通常週末レベル。」
軍曹「じゃ、ログ送ってクローズだね。」「はい。」「二曹。」「はい。」「明けましておめでとう。今年も宜しく。」「…軍曹。明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。」「少尉：明けましておめでとうございます。」

二曹「お疲れ様でした。」「軍曹「お疲れ。…二曹。気が進まなければ断ってくれて全っ然構わないんだけどさ。」「なんです？改まつて。」「家まで送るから30分だけ付き合わない？」「どこへ？」「初詣。少尉の一日も早い復帰を祈りに。」「行きます！」「お賽銭はおごるよ。」「…自分で出します。」

軍曹「シートベルトした？」「二曹「はい。」「よし。システムチェック。オールノーマル。コンファームド。サージエントモービル：ラウンチ！」「…そういうの仕事だけにしましょうよ。」「遊びだよ遊び。気分が盛り上がる…」「ああっつ！止めて下さい！」「【キキイ！】」「どしたの？」「軍曹！あそこ？」

軍曹「黒い…バイク！」「二曹「あ！逃げる？」「追うよ！掴まって！」「え？あ、はい！」「【カカカン！ウォーン！キュルキュルキュル？】「乗ってた奴：見た？」「ヘルメットもツナギも真っ黒でした！きゃん！」「仮名、ライダーブラック、か。飛ばすよ。」「…あわわっ！」「捕まえる！ぶつけてでも？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8188y/>

少尉と軍曹2

2012年1月1日02時45分発行